

普及指導情報

「台風第30号の接近に伴う農作物被害対策情報について」

(第57号)

令和8年10月22日

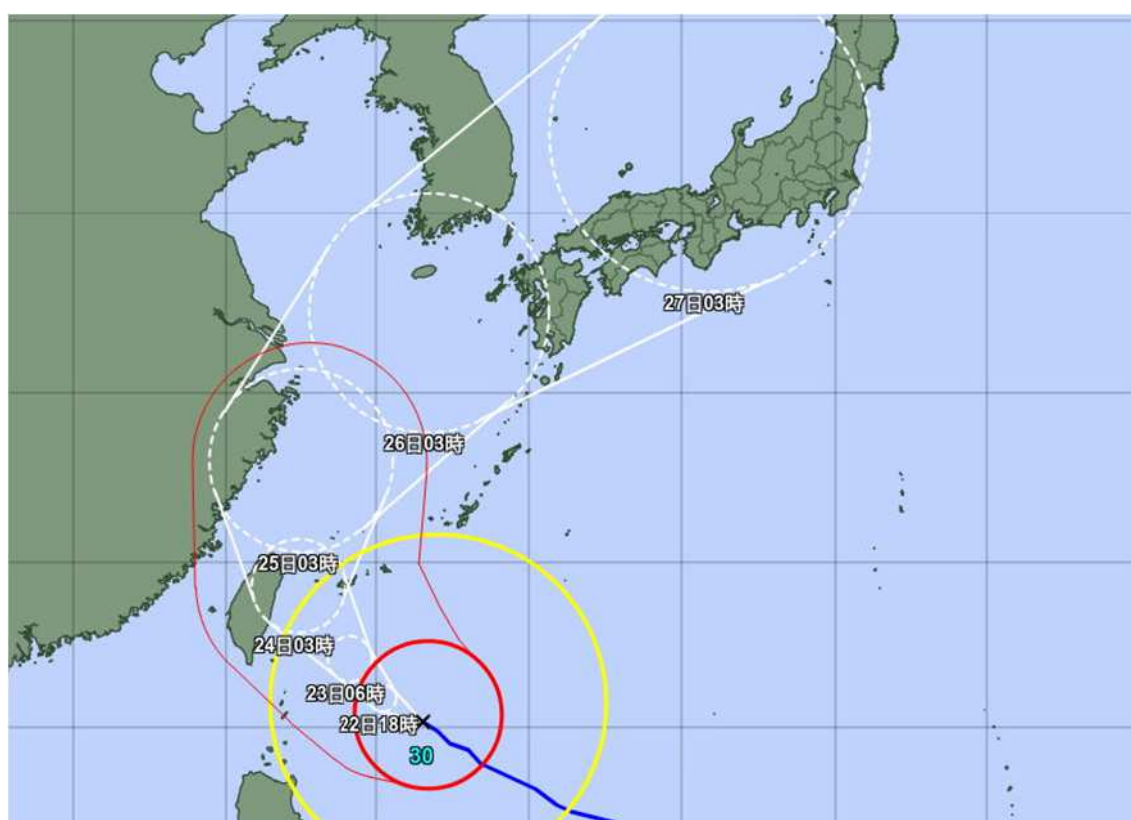
佐賀県農業技術防除センター

(表題) 台風第30号の接近に伴う農作物被害対策情報について

(担当) 農業技術防除センター 専門技術部

- 気象庁の発表によると、台風第30号は、10月22日6時には沖縄の南にあって、1時間におよそ20キロの速さで北西へ進んでいます。中心の気圧は905ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は55メートルで最大瞬間風速は80メートルと猛烈な強さとなっています。
- 今後の進路予報では、26日に九州北部にかなり接近し、佐賀県にも甚大な影響がある可能性があります。
- このため、台風接近に伴う農作物被害対策を別紙のとおり取りまとめましたので、被害を最小限に抑えるための現地指導を徹底してください。

【参考：進路予想図（10月22日6時時点、気象庁ホームページより）】



佐賀県農業技術防除センター

I. 水稻

1. 生育ステージ

- (1) 普通期 ヒヨクモチは黄熟期から成熟期である。

2. 事前対策

- (1) うるち品種で収穫期を迎え、まだ収穫が終わっていない圃場では、台風前や台風通過後も排水口を整備するなど表面排水に努め、できる限り早く収穫する。

3. 事後対策

- (1) 台風通過後は排水を促進し、早めの刈り取りを実施し、粳の老化による品質低下を防止する。

II. 大豆

1. 生育ステージ

- (1) 現在、子実肥大の中後期である。本年は例年より草高が低い圃場が多く、倒伏している圃場は少ない。
- (2) 台風によって、茎の折損、葉の裂傷、さやの脱落や倒伏により収量や品質に影響を及ぼす。

2. 事前対策

- (1) 排水溝を点検し、表面排水に努める。干ばつ対策のために暗渠の蓋を閉栓している圃場は、大雨により浸冠水が懸念されるため、開栓し排水対策に努める。

3. 事後対策

- (1) 潮位が高く、南風が強いことが予想されるため、雨の降り方によっては、潮風害の発生が懸念される。台風通過後可能であれば、散水等により塩分を洗い流す。
- (2) 台風通過後は、成熟が早まることが考えられるため、落葉した圃場から刈り取り計画を組み、刈り遅れにならないようにする。
- (3) 倒伏程度が大きくなった場合は、刈り取りの作業速度を調整し、丁重に作業を進めることで、汚粒などによる品質低下を起こさないように注意する。

III. 野菜

1. 生育ステージ

- (1) イチゴは、出蕾前後～開花期、中山間部等一部の作型で成熟期となっている。キュウリは、抑制作型で収穫最盛期、促成作型で定植期となっている。ナスは収穫期、トマトは定植期から収穫期となっている。
- (2) 雨よけ野菜のハウレンソウとコネギは、播種時期の違いにより播種期から収穫期ま

で多くの生育ステージがある。アスパラガス、夏秋キュウリ、ピーマンは収穫終了前である。

- (3) 露地野菜の夏秋ナスや抑制カボチャは収穫中、キャベツやレタスは定植直後から生育期、タマネギは育苗期である。

2. 事前対策

<イチゴ>

- (1) 病原菌の飛散による感染拡大を防止するため、台風前の薬剤散布を必ず実施する。
- (2) 本圃にビニルを被覆していない場合は、本圃周辺に防風ネットを張り、台風の進路や風向き、風の強さなどを考慮し、場合によっては寒冷紗でベタがけを行う。風でめくれないようにベタがけ資材の周辺をしっかりと止める。また、マルチを張っている場合は、風でめくれて株を痛めないように、土のう等で端を押さえる。
- (3) 本圃のビニルを被覆している場合は、施設キュウリ・トマト等の(2)～(4)に同じ。
- (4) 本圃の排水溝を再度確認し、緊急時のために強制排水の準備を行う。
- (5) 加温機、自動開閉装置等の装置や関連施設の対応も十分に行う。
- (6) 高設栽培システムで、天井ビニルを除去している場合、ベット間を直管パイプ等で連結し倒伏を防止する。
- (7) 育苗中の苗は風で飛ばされないよう、コンテナに入れるか防風ネット等によるベタがけを行う。
- (8) タンクに清水を汲んでおき、台風通過後の水洗や防除等に備える。

<施設キュウリ・トマト等>

- (1) 病原菌の飛散による感染拡大を防止するため、台風前の薬剤散布を必ず実施する。
- (2) 栽培中のビニルハウスや硬質ビニルの施設は密閉し、風が強くなったら換気扇を回す。換気扇を回す場合は停電に備え発電機を準備しておく。
- (3) 密閉するハウスはハウスバンドを締め直し、棲面の天井部に防風ネットや海苔網等を被覆する。
- (4) 風が強くとビニル等被覆資材を除去する場合は、誘引した生育初期のものは誘引をはずして倒し、寒冷紗等でベタがけする。この場合、直接ベタがけするよりも浮きがけ(トンネル状に掛ける)した方が茎葉の痛みが少ない。
- (5) 断水や停電時に灌水が不可能なハウスは、灌水用の水をハウス内に確保しておく。
- (6) 他はイチゴの(4)(5)(8)に同じ。

<雨よけ野菜>

- (1) アスパラガス、コネギ等は、収穫可能なものは早めに収穫しておく。
- (2) 栽培中のハウスは、強風によるビニルの破損を防ぐため、防風ネットや寒冷紗等による被覆、ラセン杭とハウスバンドの点検・補強、破れ部分の補修等を行う。
- (3) 雨よけハウスは風に強い構造でなく、通過時の風の強さや向きによってはビニルを緊急に除去する必要があるため、直ちに対応できるよう事前に準備しておく。
- (4) アスパラガスは、強風による茎葉の損傷を軽減するため、支柱が抜けやすいよう補強

するとともに、ネットをしっかりと張っておく。また、台風被害による草勢低下を防ぐため、事前に追肥しておく。

(5) 播種予定のコネギ、ハウレンソウ、ミズナ等は、台風が通過した後、直ちに播種できるよう圃場を古ビニル等で被覆する。

(6) 大雨に備えて排水溝の詰りがないか確認し、緊急時のために強制排水の準備を行う。

(7) タンクに清水を汲んで置き、台風通過後の水洗や防除等に備える。

<露地・夏秋野菜>

(1) タマネギの育苗セルトレイは、飛ばされないように海苔網等で抑える。

(2) 定植直後のキャベツ・ブロッコリー等は、圃場を不織布等でべたがけする。

(3) 果菜類は、収穫可能なものは早めに収穫しておく。

(4) 果菜類は、強風による茎葉の被害を軽減するため、支柱や防風ネットの補強を行い、伸長した側枝は支柱にしっかりと誘引する。また、台風被害による草勢低下を防ぐため、事前に追肥しておく。

(5) マルチは、強風で飛ばされないようにしっかり止めておき、必要に応じて畦間湛水を行う。

(6) 大雨に備えて排水溝の詰りがないか確認し、緊急時に備えて強制排水の準備を行う。

(7) タンクに清水を汲んで置き、台風通過後の水洗や防除等に備える。

3. 事後対策

<イチゴ>

(1) 台風の通過後、株に被覆していた寒冷紗等を直に取り除く。

(2) 本圃や育苗床が滞水している場合は、直ちに強制排水を行う。

(3) 茎葉の損傷等により病害発生のある恐れがあるので、薬剤散布を行う。また、同時に草勢回復のために葉面散布剤を混合する。

(4) 茎葉が汚れた場合や潮風害の恐れがある場合は、直ちに清水を散布して洗い流す。

(5) 株の傷みがひどい場合は、直射光線を防ぐため、寒冷紗等を被覆して草勢の回復を図る。

(6) 本圃の事後対策などにより、通路の排水性の低下が考えられるので、圃場が乾燥したら通路の溝上げを行う。

<施設キュウリ・トマト等>

(1) 栽培中で茎葉に被害があったり浸水した圃場では、イチゴの(2)(3)(4)と同じ。

(2) 台風が通過したら被覆物をはずし、生育の立て直しと病虫害予防のため葉面散布や追肥及び防除を行い、誘引をやり直す。

(3) 茎葉の被害が著しい場合は、整枝、切り戻し、植え換えを検討する。

(4) 被害がなかった圃場でも、葉面散布剤を混合した薬剤散布を行う。

(5) 防虫ネットが破損した場合は早急に修復する。

<雨よけ野菜>

(1) 天井ビニルを除去した場合は直ちに展張し、ビニルの破損があれば補修を行うが、換気面積を出来るだけ広く確保し、茎葉の乾きを促進する。

- (2) 軟弱野菜類でべたがけをしたところは、台風通過後早急に資材を取り除く。
- (3) 茎葉の損傷や泥はね等により病害発生が懸念されるので、低濃度の薬剤散布を行う。
このとき、草勢回復のための葉面散布剤を同時に混合する。
- (4) 茎葉が汚れた場合や潮風害の恐れがある場合は、直ちに清水を散布して洗い流す。

＜露地・夏秋野菜＞

- (1) 茎葉や果実が風害で損傷した場合は、損傷部を除去する。
- (2) 畦間に湛水している場合は、過湿による根傷みを防ぐため、直ちに排水し、マルチを畦の肩まで上げて余分な水分の蒸発を促す。
- (3) 茎葉の損傷や泥はね等により病害発生が懸念されるので、低濃度の薬剤散布を行い病害の予防と土砂の洗い流しに努める。このとき、草勢回復のための葉面散布剤を同時に混合する。
- (4) 支柱や誘引資材が被害を受けた場合は、補修を行う。

IV. 花き

1. 生育ステージ

＜施設栽培＞

- (1) 電照ギクは、育苗期、生育期から収穫期のものがある。
- (2) バラは、収穫期となっている。
- (3) カーネーションは、生育期となっている。
- (4) トルコギキョウは、平坦では定植期から生育初期であり、中山間地では出荷期終盤となっている。

＜露地栽培＞

- (1) キク等は生育期から出荷期のものがある。

2. 事前対策

＜施設栽培＞

- (1) 密閉するハウスは、ハウスバンドを締め直し、棲面の天井部に防風ネットや海苔網等を被覆する。
- (2) 栽培中のビニルハウスや硬質ビニルは密閉し、吸気口を閉めて換気扇を回す（吸気口を完全に閉めるとブレイカーが落ちる場合は、吸気口に隙間を設けるか、換気扇の回転数を落とす）。
- (3) 加温機、自動開閉装置等の機材や関連施設の対策も十分に行う。
- (4) 栽培が終了し、土壌消毒を行っていないハウスは、早めにビニルを除去する。
- (5) 台風の強さによっては、ハウス本体を守るためにビニルを除去する。
- (6) タンクに清水を汲んで置き、台風通過後の水洗や防除等に備える。
- (7) 電照ギク等、電照栽培や電力を使用する機器、装置を用いる施設花き類では、停電に備え自家発電機の準備、点検を行う。

＜露地栽培＞

- (1) 倒伏・茎曲りを防止するため、ネット上げやネット及び支柱の固定を行う。
- (2) 圃場の周囲に排水溝を掘り、排水条件を良くする。
- (3) 収穫できるものは早めに収穫する。
- (4) マルチ等は飛ばないようにしっかり止めておく。
- (5) タンクに清水を汲んでおき、台風通過後の水洗や防除等に備える。

3. 事後対策

<施設花き>

- (1) 破損したハウスでは修理を早急に行い、雨がかからないようにする。
- (2) ハウス内に水が入った場合は、早急に排水を行う。
- (3) 倒伏した場合は、速やかに元に戻し、ネットや支柱で固定する。
- (4) 茎葉の損傷等による病害発生のおそれがあるため、薬剤散布を行う。また、同時に葉面散布を行い、草勢の回復を図る。
- (5) 急激に天候が回復した場合、強光による葉焼けを防止するため、光量に応じて遮光するなどきめ細かな対応に努める。
- (6) 電照ギクでは、電照装置が正常に稼働しているか確認する。

<露地花き>

- (1) 倒伏した場合は、速やかに元に戻しネットや支柱で固定する。
- (2) 圃場に水が溜まった場合は、速やかに排水を行う。
- (3) 茎葉が汚れた場合や潮風害のおそれがある場合は、直ちに清水を散布して洗い流す。
- (4) 茎葉の損傷等による病害発生のおそれがあるため、薬剤散布を行う。また、同時に葉面散布を行い、草勢の回復を図る。
- (5) マルチ下の土壌が過湿状態にあるときは、雨が上がってからマルチを剥ぎ、畦肩を露出させ土壌を乾燥させる。

V. 果樹

1. 生育ステージ

<柑橘類>

- (1) 露地柑橘類では、極早生温州が収穫終盤で、早生温州が収穫期、その他の系統、品種は果実肥大期である。
- (2) ハウスみかんは、早加温直前期タイプで加温直前となっており、その他の施設では被覆準備中の園や結果母枝の充実促進中の園等さまざまである。

<落葉果樹類>

- (1) ナシ、ブドウでは収穫がほぼ終了している。
- (2) カキは収穫期となっており、キウイフルーツは収穫直前となっている。

2. 事前対策

<露地柑橘類>

- (1) 強風により枝葉や果実が傷つき、かいよう病が発生しやすいため、台風襲来前（1～7日前）に銅水和剤等の薬剤散布を行う。
- (2) 高接ぎ更新樹や開張性の強い品種では、強風による枝折れが心配されるため、支柱を立てて枝を誘引、固定する。また、幼木は頑丈な支柱を立てて誘引・固定し倒伏を防止する。
- (3) 大雨による土壌流亡や土砂崩れを防ぐため、園内外を巡回し集排水溝を点検、整備する。
- (4) マルチ被覆園では圃場を点検し、マルチ押さえを増やすなど、風により被覆資材が飛ばされないようにしておく。
- (5) 風向きによっては潮風害が発生する恐れがあるので、散水のための用水を確保しておく。

<施設栽培>

- (1) ハウス全体を点検し、破損個所の修理、ハウスバンドの締め直しを行う。
- (2) 強風時にはハウスの強度を高めるため、完全にハウスを密閉し、換気扇を作動させてハウス内を負圧にし、ビニルのあおりを少なくする。
- (3) パイプハウスの強度は一般に風速30 m/sとされている。風が強すぎる場合にはハウス本体を守るために、ビニルを除去する。

<落葉果樹類>

- (1) 成熟期を迎えている樹種で収穫可能なものは収穫する。
- (2) 果樹棚の点検を行い、破損個所等の補修を行っておく。また、上下のあおりで、果実のスリ傷や落果が増えるため、パイプによる補強やアンカーを増設し果樹棚の引き下げを行う。
- (3) 枝葉の損傷や落果防止のために、結果枝を誘引・固定する。
- (4) 幼木は頑丈な支柱を立てて誘引・固定し倒伏を防止する。
- (5) 強風雨によりカキの炭疽病等の発生が増加するため、台風襲来前に薬剤防除を行う。

3. 事後対策

<露地柑橘類>

- (1) 潮風害の発生が懸念される場合は、台風通過後なるべく早く真水を散水し、付着した塩分を洗い流す。
- (2) 強風や土砂崩れ等で倒伏した樹は、早急に起こし支柱を立てて誘引・固定する。また、根元を敷きワラ等で保護して樹勢の回復を促す。
- (3) 強風で折れた枝は早急に元に戻し、ヒモ等で結束する。枝折れがひどい場合は切り落とし、傷口に癒合剤を塗布する。
- (4) マルチ栽培で被覆資材がはがされた場合は、直ちに修復するとともに、晴れ間をみて資材を開放し土壌の乾燥に努める。

<施設栽培>

- (1) ハウス施設が損壊した場合には、早急に修復する。
- (2) ハウス内に雨水が浸入した場合には、園外への排水を図る。また、ハウス内の湿度を下げるため、換気を十分に行う。

<落葉果樹類>

- (1) 落果した果実はヤガ等の吸汁害虫が誘引されるため、集めて園外に持ち出す。
- (2) 果樹棚や防風ネット等の施設の損傷は早めに修理する。
- (3) 倒伏した樹は早急に立て直し、根元を保護して樹勢の回復を促す。
- (4) 強風によって損傷した枝葉は、カキの炭疽病等をはじめとした病原菌が感染しやすくなっているため、台風通過後は早急に薬剤散布を行う。
- (5) 強風雨によりキウイフルーツかいよう病が発生しやすくなるため、収穫終了直後から銅水和剤を定期的に散布する。

VI. 茶

1. 生育ステージ

- (1) 現在は、秋芽の生育終了時期に入り、一部で秋冬番茶を摘採している。

2. 事前対策

- (1) 園内からの排水が円滑に行われるよう、園内外を巡回して集排水溝を点検し、不具合があれば整備する。
- (2) 幼木園はマルチのおさえを確認し、強風でマルチがはがれないようにする。

- (3) 風向きによっては潮風害が発生する恐れがあるので、散水のための用水を確保しておく。

3. 事後対策

- (1) すでに秋冬番茶の摘採が終了した茶園および強風で葉傷が生じた園では、台風通過後できるだけ早く銅水和剤（赤焼病の常発園はカスミンボルドー）の散布を行う。
- (2) 幼木園での被害状況を点検し、マルチのはがれや株の浮き上がりがみられる場合は元の状態に戻す。株が動いた場合は、早めに土寄せを行い、敷きわら等で地際部や根を保護する。
- (3) 潮風害の発生が懸念される茶園、特に海岸線に近い茶園では台風通過後速やかに清水を散水し、付着した塩分を洗い流す。
- (4) 潮風害による先枯れ、枝枯れ等の発生が甚だしい場合は樹の回復後に被害部の直下で剪定する。

Ⅶ. 畜産

1. 事前対策

<畜舎・家畜>

- (1) 畜舎及び堆肥舎などの点検・整備を行い、風雨の侵入を防止する。
- (2) 畜舎周辺の排水溝を清掃し、排水対策を行う。
- (3) 畜舎周辺の施設、飼料タンクなどが暴風雨で飛ばないように固定を強化する。
- (4) 庇陰樹の整枝、板、スレート材などの飛来原因物を整理する。
- (5) 夜間の突発的作業や停電時に備えて、作業手順や道具の整理・整頓、自家発電装置、照明器具などの準備を行う。
- (6) 停電時には井戸ポンプが止まり家畜の飲料水が不足することがあるので、ポリタンク等に予備飲用水を確保する。（1頭（羽）当たり必要量（L／日）：50（肥育牛）～150（乳牛）、豚：30、鶏：1）

<飼料作物（WCS含む）>

- (1) 飼料作物は収穫できるものはすみやかに収穫する。また、ロールベールの倒壊や稲わら等の飛散防止に努める。
- (2) イタリアンライグラスなどの冬作牧草は、播種後の長期間灌水で発芽不良や生育不良を起こしやすいため、明渠・排水溝の再点検や畦畔や排水口の詰まりを除去するなど排水対策に努める。

2. 事後対策

<畜舎・家畜>

- (1) 家畜の観察を行い、異常家畜の早期発見に努める。また、台風通過後の高温対策のため換気等に十分気を付ける。
- (2) 畜舎に雨水などの侵入があった場合は直ちに清掃した後、逆性石鹼 500～1000 倍液を 1～2 L / m² 噴霧するか消石灰を散布して消毒する。また、新鮮な飲料水、腐敗やカビのない飼料を確保し、敷料は、新しいものに交換する。
- (3) 速やかに被災状況を確認し、被害施設の補修、修繕や家畜の事故につながる飛来物などの除去を行う。また、電気配線等の切断や漏電に注意する。

<飼料作物 WCS含む>

- (1) 滞水した場合は速やかに排水できるよう努める。また、播種直後の圃場については初期成育を観察し、必要であれば追播を検討する。
- (2) ロールベールサイレージ等のラップが破れた場合は、破損部分を直ちに補修し、早めに家畜に給与する。